

講義ユニット名	精神		所属科目名	器官・システム病態制御学Ⅱ
講義ユニット 責任者	おかもと やすまさ 岡本 泰昌	所属	精神神経科 (内線 2333)	
		メール	oy@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	やました ひでひさ 山下 英尚	所属	精神神経科 (内線 2335)	
		メール	hidehisa@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な治療者患者関係を構築するための精神科面接について学習する。 ・うつ病や統合失調症など、精神科医療でかかわる精神障害の概念・病態の理解、および診断、治療法について学習する。 ・病態理解は生物学的、心理的、社会的観点から行う。 ・治療法は薬物療法、精神療法を重点的に学習する。 			
講義ユニットの 到達目標	<p>不安・抑うつの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>不安・抑うつをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>不安・抑うつがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>もの忘れの原因と病態生理を説明できる。</p> <p>もの忘れをきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。</p> <p>もの忘れがある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。</p> <p>不安・躁うつをきたす精神障害を列挙し、その鑑別診断を説明できる。</p> <p>意識障害、不眠、幻覚・妄想をきたす精神障害を列挙し、その鑑別診断を説明できる。</p> <p>ストレスなどの心理社会的要因が症候(息苦しさ、心窩部痛、腹痛、頭痛、疲労、痒み、慢性疼痛等)に密接に関連している代表的な疾患を列挙し、その鑑別診断を説明できる。</p> <p>ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。</p> <p>患者-医師の良好な信頼関係に基づく精神科面接の基本を説明できる。</p> <p>精神科診断分類法を説明できる。</p> <p>精神科医療の法と倫理に関する必須項目(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、心神喪失者等医療観察法、インフォームド・コンセント)を説明できる。</p> <p>コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。</p> <p>心理学的検査法(質問紙法、Rorschachテスト、簡易精神症状評価尺度(Brief Psychiatric Rating Scale <BPRS>)、Hamiltonうつ病評価尺度、Beckのうつ病自己評価尺度、状態特性不安検査(State-Trait Anxiety Inventory <STAI>)、Mini-Mental State Examination <MMSE>、改訂長谷川式簡易知能評価スケール等)の種類と概要を説明できる。</p> <p>症状精神病の概念と診断を概説できる。</p> <p>認知症の診断と治療を説明できる。</p> <p>薬物使用に関連する精神障害やアルコール、ギャンブル等への依存症の病態と症候を説明できる。</p> <p>統合失調症の症候と診断、救急治療を説明できる。</p> <p>うつ病の症候と診断を説明できる。</p> <p>双極性障害(躁うつ病)の症候と診断を説明できる。</p> <p>不安障害群と心的外傷及びストレス関連障害群の症候と診断を説明できる。</p> <p>身体症状症及び関連症群、食行動障害及び摂食障害群の症候と診断を説明できる。</p> <p>解離性障害群の症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>パーソナリティ障害群を概説できる。</p> <p>知的能力障害群と自閉症スペクトラム障害(autism spectrum disorder <ASD>)を概説できる。</p> <p>注意欠如・多動障害(attention deficit / hyperactivity disorder <ADHD>)と運動障害群を概説できる。</p> <p>頭部外傷後の高次脳機能障害を説明できる。</p> <p>精神保健医療福祉の現状と制度を説明できる。</p>			
講義日程	別紙日程表を参照のこと			
出席の取り扱い	講義については3分の2以上の出席を試験の受験要件とする。特別講義については全ての出席を試験の受験要件とする。			

評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式と記述形式併用で試験を行う(配点: MCQ 90点、記述 10点)。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	<p>【購入を推奨する参考書】 標準精神医学 第6版 現代臨床精神医学 DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引 【その他、学習に有用な参考書等】 カプラン臨床精神医学テキスト</p>